関川村総合振興審議会　グループごとの意見交換の内容（R6.9.26）

（1）子育て

〇テーマ　こういう子育て支援があれば村に来たいと思う

・関川村は、保、小、中が１施設ずつしかない。逆に、園のみんなや学年年齢関係なく遊べる（つながれる）ので、社会性が身につけられ、一体感が生まれる。

・保、小、中が１施設ずつしかないと、いつも一緒　→　スクールカーストが出来てしまう。　→　学校に行かなくなった子たちの第３の居場所が欲しい　→　村には「ほ～む」や「る～む」が令和６年度開設し、早めに支援が入れる等、多様な考えに対応できている。

・子どもが小学生で、村上特別支援学校に通っている。年に 1 回程度関川小と村上特支で交流会を行い、名前を覚えてくれる。広域としてのつながりを持つことで、災害時にも避難所生活になった際などで孤立しないため、とても良い取り組みだと思う。

・「子育てしやすいから村に来る」　→　他市町村でも同様のことをやっているため、実際には考えられない　→　エッジの効いた「関川村と言えばコレ」というイメージを作るのはどうか

（例①教育の村。高度なことを教えて進学率も良いです）

（例②親も学べる。定期的にペアトレ等の講習会を開催し、子どもだけでなく親も学べます）

→親の無関心層にどのようにアプローチすればよいか。入学式等の学校の行事に合わせて講座を行う。LINE で講座のポイントを流し興味を持ってもらう。

・村に求める支援として、補助金とかよりは、「教育に特化してます」がアピールできるような施策があれば周知しやすい。

（2）健康づくり

〇テーマ　自殺対策

・同居している高齢者の自殺率が高いことを知らなかった。

・同居家族の中での孤立については外部からみてもわからないと思う。人の家がどのような状態なのかわからない。

・（自殺予防の）ゲートキーパー研修について、もっと村民へ周知すべき（総合審の委員の中でも知らない方がいる）。村民の周知対象は、健康づくり推進員と食生活改善推進員とのことだが、仕事をしている人は平日以外、または夜間でないと参加できないと思う。

・気になる人がいたら周りをもっと確認することが大切である。本人だけでなく家族も大変な場合もある。どのようにフォローしていけばいいのか。

・村のひきこもりの人は約 150 名で高齢化してきている。同居の家族はなかなか言わない。居場所として「ほ～む」、「る～む」、「つなぐ」、七ヶ谷の「いこでーば」などがあるが出てくる人は同じ。出て来ない人は出て来ない。出来上がっているコミュニティに自分一人では飛び込めないと思う。老人クラブや地域の茶の間も減少傾向で、地域差がある。女川地区はとくに少ない。出て来ない人をどうするか。選択できる受け皿があるのはよい。

・子どもたちの対策が必要である。オーバードーズやリストカットなど村でも聞くようになった。死にたいだけではなく、快楽を得たい、ストレス解消、自己顕示欲によるものもあり、SNS やインターネットの普及により自殺や死ぬかもしれない行為へのハードルが下がっている。

・村上市の高根でクリスマスに子どもサンタが高齢者宅へプレゼントを持って訪問するということをやっていて、孤立を防ぐいい事業だと思う。

〇テーマ　働き世代の健康づくり「働き世代の健診受診率や村事業への参加を増やすには」

・社会保険の人であれば職場から言われて受けていると思うが、国民健康保険の自営業の人であれば忙しい等で受けていない場合もありそう。自分が社長や家族経営の場合は必要に迫られない。

・自分は 30～40 代くらいはそんな健康について意識していなかった。50 代になってから同年代の集ま

りで健康の話題があがるようになり、薬を飲んでいる人も結構いる。気にして走ったり歩いたりしている人もいる。

・若い世代に健康でいることの大切さ、意識付けが必要である。
・中学生、高校生のコラッシェの活用について検討してみては。
・子どもと一緒に参加できる事業があるとよい。
・新発田市では、にいがたヘルス＆スポーツマイレージアプリを活用した職場対抗ウォーキングを実施している。実際に自分の職場ででも取り組んでいるが、チーム対抗なので、普段歩かない人も歩いている。
 →県アプリの権限が 10 月から村に委譲されることになったので、村でも実施が可能である。
・村の健康ポイントは、令和６年度に内容を見直した結果、取り組む方が前年度より増える見込み。
 →アプリと絡めるなど、よりいいものにして実施できるとよいのでは。
・切り口を変えて健康づくりを全面に出さない事業もいいのではないか。体を動かすｅスポーツを取り入れる。新発田市は「ぷよぷよ」が好評だった。手と頭を使うので認知症予防によい。麻雀も対面で手と頭を使うので再ブームになっている。

(3) 生涯学習

〇テーマ　現在の生涯学習事業(スポーツも含む)について思うこと

・休日の仕事が多く大変そう
・よくわからない
・駅伝大会については、本気を求められると若い人が参加しづらい。一生懸命走るレースでなくてもよいと思う。
・各種大会(駅伝・マラソン)は、選手だけでなく役員選出も大変になってきている。外部委託できないか。
・今はまだよいが、近い将来実施が難しくなることは目に見えているので、今のうちからどうしていくのかを考えておく必要がある
・いろいろと大変な面はあるが、実施することで、地域のつながりが持てる機会となっている。

〇テーマ　今後の生涯学習事業に期待すること

・アウトドア系の講座などはどうか
・村民と村外の人との交流ができるよう事業があったらいい。
・チラシ等の印象が大事。役場から来るチラシはみんな一緒で何の魅力もない。
・生涯学習だけではなく、他の部署もまとめて月ごとにイベント等のお知らせを冊子みたいにまとめたらどうか。ばらばらと広報に挟まってくると見づらいし見るのが面倒。
・文科系の部活もあればよい。スポーツが苦手な子もいる。
・ゆーむの村外の人の値段を上げたのはとても不評だ。
・ゆーむと歴史館の相互割引券などを考えてみるのはどうか。

(4) 大したもん蛇まつり

〇テーマ　担ぎ手の確保

・担ぎ手の多い集落もある一方、全くいない集落があり、参加に温度差がある。外部の方の担ぎ手も増えているが、村民が大蛇を担ぐことに意義があると思う。
・若いお父さんの中には、（お母さんが仕事などで）担ぎ手としてパレードに参加したくても、小さい子供にパレードを見せるため、参加できない人もいると思う。
・集落の祭りなどを通じて、若い人（20 代）との交流があるので、担ぎ手として勧誘しやすい。
・担ぐ場所が集落によってバラバラで、前後はコミュニティも違う交流のない集落が配置されている。前後が交流のある隣集落なら一緒に担いで応援しようという気持ちになるが、そうでないと担ぎ手

の応援が難しい。
・大蛇パレードには、旅館関係者は参加したことがなく、実態が分からないのが現状。前日の花火大会の運営を主にしているので、パレードの日（花火の翌日）は花火のカラ拾いに従事していている。

〇テーマ　ＰＲ
・大蛇まつりのポスターは６月中旬から掲示され、８月末のイベント終了後に撤去されるのがもったいないと思う。せっかく村を代表するイベントなのに周知期間が２か月ちょっとでは短い。通年 PR できるようなポスター（できればリーフレットも）があるとよい。
・大蛇の担ぎ手を通年受け付けるようになると観光客へのアピールになると思う。